

授業概要 (シラバス)

■科目基本情報

専門学校日本ホテルスクール

| | | | |
|-------|---|---------|-------------------------|
| 科目番号 | MS614 | 分類 | 講義科目 |
| 授業科目名 | リーダーシップマネジメント(英) | 英文授業科目名 | Leadership & Management |
| 年度 | 2025年度 | 年次 | 昼間部 2年 英語専攻科 |
| 開講学期 | 通年 | 授業の方法 | 講義科目 |
| 単位数 | 2単位 | 年間授業時間数 | 28.8時間 |
| 科目区分 | 専門科目 | 授業コマ数 | 24コマ |
| 担当教員名 | 中山万作 | 実務経験なし | 備考 |
| 経歴 | フォーシーズンズホテル丸の内東京 宿泊部 ゲストサービスオフィサー インチャージとして3年従事 (旧) Soneva Gili by Six Senses 宿泊部 Mr. Friday (パトラー) アシスタントマネージャーとして2年従事 パークハイアット東京 宿泊部 フロントサービスオフィサーとして1年従事 | | |

■授業・科目情報

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| 学習目標 | 効果的な組織には欠かせない組織のリーダー。リーダーシップとチームマネジメントに焦点を当てます。学生はコミュニケーション、チームビルディングの基本ルール、対人関係のスキルの向上、生産的な組織構築へ向けたリーダーシップスキルの理解、チームの動機付けとコントロールのための手法や効果を学ぶ。 | | |
| 教科書 | 独自に学習教材を用意する。 | | |
| 授業計画 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | イントロダクションとコミュニケーションの重要性 | |
| | 2 | リーダーシップとマネジメント | |
| | 3 | リーダーシップとコミュニケーションの関係についての概要 | |
| | 4 | 効果的なコミュニケーションスキルの重要性 | |
| | 5 | 効果的なコミュニケーションスキルの開発(アクティブリスニング・ノンバーバルコミュニケーション) | |
| | 6 | コミュニケーションの誤解とその解決策・改善方法 | |
| | 7 | チームビルディング | |
| | 8 | チームの強化と共感の構築 | |
| | 9 | 対人関係のスキルとエンパワーメント | |
| | 10 | エンパワーメントとチームメンバーの成長促進 | |
| | 11 | リーダーシップと組織文化 組織と性格、目標 | |
| | 12 | まとめ / 試験 | |
| | 13 | リーダーシップと組織文化 個人価値観・社会 | |
| | 14 | モチベーション 理論と実践 | |
| | 15 | チームの動機付けと管理の戦略 | |
| | 16 | 意思決定の実践 | |
| | 17 | チームプロジェクト | |
| | 18 | チームの役割とメンバー | |
| | 19 | チームプロジェクト 進行状況とフィードバック | |
| | 20 | ケーススタディの分析とディスカッション | |
| | 21 | プレゼンテーション&ディスカッション | |
| | 22 | プレゼンテーション&ディスカッション | |
| | 23 | 個人の成長、チーム組織の発展 | |
| | 24 | まとめ / 試験 | |
| 授業の進め方 | 講義テーマについて、個人やグループでの分析を行い、実際のリーダーの資質、課題を理解する。効率的に成果を出す組織とリーダーや構成員の役割を体感できるように、グループワークを行う。 | | |
| 試験の実施方法 | 前後期各1回 試験期間に設定し、形式は文書試験とする。 | | |
| 成績評価方法 | 本校の規定に基づき、全科において共通評価基準にて算出する。 ①試験得点 = 50% (10ポイント) ②出席率 = 50% (10ポイント) 上記の2つの項目をそれぞれ10ポイント(合計20ポイント)に置き換えて、そのポイントに応じてA,B,C,D,F評定を決定する。 尚、前提基準として①試験全体平均点の50%未満。または②出席率の50%未満に該当する場合には「F」評価とするが、通年教科の後期学年末の評価については、前期および後期全体の状況をもって算出する。 | | |
| 関連科目 | ホテルマーケティング、ホテルマネジメント | | |
| 参考書 | | | |
| 学生へのメッセージ | リーダーシップの在り方は様々です、目標の設定、サポートと積極性、相互理解を深めながら個人のリーダーのあり方、自身であれば課題を進め目的を達成するのかを効率的に考えましょう。 | | |